成長
～群読劇で育つ～

塙保己一 没後200周年記念企画『不撓不屈の人』。今回は、特別企画として群読劇「塙保己一物語 こども劇団」を紹介。また、遺徳顕彰祭や各種催し、塙保己一関連商品の情報をお届けします。

塙保己一を知り、考える

塙保己一を盲目の国学者として知る人は多い。しかし、彼の本当の魅力は、武士が国を治めていた江戸時代において、全国の盲人組織の長である総検校（そうけんぎょう）として大名にも引けを取らない政治的発言力を持っていたこと、また、和学講談所の創設者として後世の人材育成に努めた教育者の一面も持っていた、という人間としての大きさにあると思う。

彼は、努力だけで出世したわけではない。多くの人が彼を支え、協力することで人間として大きくなったのだと思う。それは、支えたくなる魅力を彼自身が持っていたからであろう。

塙保己一を伝える

そして現代、塙保己一の魅力を「群読劇」を通して伝えるべく、奮闘している子どもたちがいる。彼らは、塙保己一の物語を演じることだけが目的ではない。演じることで、自らを成長させている。

「ぼくもやりたい」がきっかけ

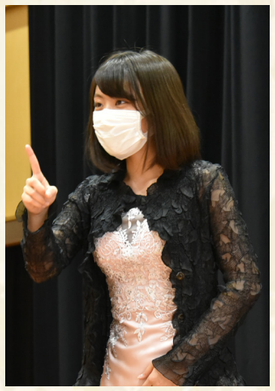
塙保己一先生を本庄市民のアイデンティティにできないかと、大人を中心とした群読劇の公演を始めました。

3回目の開催では、郡内の子どもたちにも参加を呼びかけ、本庄市を飛び出して上里町で公演しました。このとき、ある子どもに「ぼくもやりたい。」と言われたことがきっかけで子ども群読劇を継続しています。

また、「奇跡の人」として知られるヘレン・ケラー生誕の地では、誕生日（6月27日）に合わせ、彼女をモデルとした劇が上演されるそうです。塙保己一先生の誕生日は5月5日、その日に合わせて群読劇を行いたいと思いました。

毎年、子どもたちがこの群読劇を楽しみながら演じてくれるなら、喜ばしい限りです。

竹並　万吉 さん
（塙保己一物語劇化実行委員会会長）



群読劇で育つ

1月、寒さの厳しいなか群読劇「塙保己一物語　こども劇団」の練習が始まった。

全体で集まることができるのは月に数回、はじめは台本を見ながら読むだけで精いっぱいであった。上達できるよう、台本を持ち帰り自宅で練習を重ねる。

群読劇は、舞台セットを必要としない。そのため手軽に思えるが、実際には読みと表情の表現だけで見ている人に時代背景や空間をイメージさせなければならないため、むしろ難しい。

子どもたちは、自分に与えられた役を言葉と表情で表現していくうちに、自己表現もうまくなっていく。

塙保己一の誕生日である5月5日、彼らははにぽんプラザで公演を行い、練習の成果を発揮した。そして9月12日、さらに大きく成長した姿を私たちに見せてくれるだろう。

こんな時代だからこそ、不撓不屈の人、塙保己一を演じる彼らの成長を見てほしい。

子どもたちを信じて

小学校の教員時代から音声言語に関心があり、群読（劇が一切ない形式）に取り組んでいました。群読劇の塙保己一物語には、数年前から演出に参加しています。

今回、子ども劇といっていますが、小学生だけでなく中学生、高校生にも参加してもらいました。小学生の全力で声を出す演技、中学生の表現を意識した演技、高校生の経験に裏打ちされた確かな演技。表現の幅や厚みが増していると実感しています。

子どもたちは、進むべき方向を示し、丁寧に支援し続ければ、大人の想像を超える成長をします。指導者として、子どもたちを信じて『演じきった子どもたちが、胸を張って舞台を降りてこられる』ようにするのが、私の責務と考えています。

富丘　富士子 さん
（群読劇潤色・脚色）